

2019年度 第1回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2019年6月4日（火）13時30分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

- 場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80
- 出席者 委員：15名 オブザーバー：13名 事務局：5名 計33名
- 協 議 (1) 平成30年度事業報告（案）・収支決算（案）について
(2) 任期満了に伴う役員改選（案）について
(3) 平成30年度の中心市街地活性化に向けた取組に対する意見について
- 報 告 (1) 秋田市中心市街地活性化基本計画に関する事業の進捗
① 秋田市中通 CCRC 拠点整備事業の進捗について
② ノーザンステーションゲート秋田の動向について
(2) 秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗
① 情報発信事業の進捗について
② アートなまち歩きの発行について
- そ の 他 (1) 県市連携文化施設および旧県立美術館の進捗について
(2) 東北経済産業局からの施策紹介について

○発言内容

【三浦会長の開会挨拶】

本日はご多忙のところ、第1回協議会にご出席賜り誠にありがとうございます。

まずは5月24日からの3日間、中心市街地を会場に「これが秋田だ！食と芸能大祭典」を開催しました。4回目となる今回は晴天にも恵まれ、昨年を上回る17万1千人にご来場いただき、伝統芸能の競演が繰り広げられ、大いに賑わいをみせ、成功裡に終了することができました。

委員の皆様からは、大祭典と同時開催のお買い物スタンプラリーも含め、多数のご支援とご協力を賜り、この場を借りてお礼申し上げます。

さて、第2期計画の中核事業である県・市連携新文化施設については、運営方針などを話し合う検討会の初会合が5月28日に開かれ、開館前の啓発事業や記念事業について検討が進められているところであります。

また、民間サイドでは、北都銀行を中心とする中通地区 CCRC 拠点整備事業が、来年秋の完成を目指して本体工事に着手しております。

さらに、JRが取組む「ノーザンステーションゲート秋田」では、スポーツ施設や学生マンション等の名称が公表され、開設に向け、着実に準備が進められております。

加えて、ホテルメトロポリタン秋田では、9階建ての別館を増築する計画を発表するなど、中心市街地エリア内において様々な動きが活発化しております。

これら様々な取組を進めてきた成果として、秋田駅前の地価が27年ぶりに上昇に転じるなど明るい兆しも見えてまいりました。これまでの委員の皆様からのご支援・ご協力にあらためて感謝申し上げます。

本日は、平成30年度の事業報告・収支決算と、中活計画の進捗状況を国に報告するにあたり、当協議会からの意見を求められておりますので、それぞれご審議を賜りたいと存じます。

ご臨席の皆様からは忌憚のないご意見を賜りますようお願い申しあげ、開会のご挨拶といたします。本日は、よろしくお願いいたします。

【協 議】

(1)平成30年度事業報告（案）・収支決算（案）について

事務局より、年3回の協議会開催や中小企業基盤整備機構の中心市街地商業活性化アドバイザー派遣制度の活用、新潟県新潟市「水と土の芸術祭」への先進地視察実施結果などを説明した。

特に平成30年度は、芸術文化ゾーン活用トライアル事業を実施し、10月を「ギュギュっと秋の芸文祭」期間と定め、秋田市立千秋美術館や秋田県立美術館をはじめ、秋田市中心市街地の芸術文化関連施設が連携して、街の様々な場所で企画展や展覧会を開催した。また、10月6日（土）には、キックオフイベントとして芸術文化ゾーンの官民文化施設が連携し、展示品や収蔵品等の魅力を発信する「公開トークイベント」を実施。研究会メンバーが中心となって広く市民・県民に各施設の魅力を発信した。

引き続き、収支決算（案）について収支状況を事務局から説明し、根田監事からの監査報告後、原案通り承認された。

(2)任期満了に伴う役員改選（案）について

秋田商工会議所の三浦廣巳会頭が会長再任となった。

副会長は、会長の指名により、公益財団法人秋田市総合振興公社の菅原真理事長、監事は秋田市広小路商店街振興組合佐々木清理事長と秋田市都市整備部根田隆夫部長の2名が再任した。

(3)平成30年度の中心市街地活性化に向けた取組に対する意見について

はじめに、秋田市都市総務課千田課長が下記のとおり説明した。

内閣総理大臣の認定を受けた中心市街地活性化基本計画については、中心市街地の活性化に関する法律および閣議決定された中心市街地の活性化に関する基本的な方針により、計画期間中毎年フォローアップ（自己評価）を行い、内閣総理大臣へ報告するとともに、ホームページ等による公表が求められている。

フォローアップについては、内閣府が作成したフォローアップ実施マニュアルに従い、報告書を作成する必要がある、中心市街地活性化協議会の意見を記載することが求められている。

本日は、平成30年度における取組みの評価として、目標指標の最新値を報告するとともに、フォローアップ報告書に記載する中心市街地活性化協議会のご意見を伺いたく協議いただくものである。

はじめに、1頁、I. 中心市街地全体に係る評価の1. 平成30年度終了時点の中心市街地の概況についてであるが、平成30年度は計画2年目として、県・市連携文化施設整備をはじめとする芸術文化ゾーンの整備が進められており、行政主体のハード整備だけでなく、芸術文化ゾー

ン活用研究会等による官民が連携した取組みも順調に進められている。また、民間事業についても、日本版CCRC事業として進めている中通CCRC拠点整備事業や、秋田駅周辺におけるスポーツ整形クリニックの開院、アリーナや放送局新社屋の建設などが進められており、目に見える形で活性化に向けた取組みが行われている。

これらの実施をうけて、秋田駅西口では27年ぶりに商業地の地価が上昇するなど、活性化に向けた取組の効果が確実に現れてきていると評価しているところである。

2頁上段には、中心市街地の状況に関する基礎的なデータとして、人口に関するデータを載せている。

中心市街地の人口については、計画の開始前年度にあたる平成28年度から若干の増加となっている。下段の人口増減数はマイナス34人となっているが、この違いは表の脚注に記載しているとおり、データの出典元が異なることから生じている。

中心市街地の人口については、第1期基本計画策定時から秋田市人口世帯表から算出しているが、これは国勢調査の結果をもとにした推計値となっている。中心市街地においては、外国人や学生など、住民登録をせずに居住している人口が一定数おり、これを考慮する必要があることから、基本計画の人口は国勢調査をベースにしたものとしている。

また、人口増減数は住民基本台帳からの算出となっているが、これについては、出生数・死亡数による自然増減、転入・転出による社会増減を把握する必要があることから、住民基本台帳によるものとしている。

2頁中程を空欄としているが、「2. 平成30年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見」という項目がある。内閣府が作成したフォローアップ実施マニュアルでは、報告書に記載しなければならない項目が定められており、この部分に中心市街地活性化協議会として、昨年度の中心市街地の状況や基本計画に掲載された取組の進捗状況等についてどう考えているかという意見を記載する事となっている。

本日はこの部分に記載のご意見をいただきたいと考えている。協議会からの意見については、この説明の後、協議会事務局から説明することとなっている。

3頁、Ⅱ. 目標後とのフォローアップ結果の「1. 目標達成の見通し」と、下段の「2. 目標達成見通しの理由」を併せて説明する。

中心市街地活性化基本計画では、5つの目標指標を設定し、活性化に向けた取組を進めている。

1つ目の目標指標である歩行者自転車通行量は、平成30年度が29,721人となり、基準である平成28年度の値を下回る結果となった。これは、平成30年5月末をもって秋田県民会館およびジョイナスが閉館した影響を受けたものと考えている。

次に、芸術文化施設利用者数についてであるが、対象施設は、県民会館、県立美術館、市立千秋美術館、佐竹史料館の4施設とし、県・市連携文化施設開館後は、県民会館に代わり、県・市連携文化施設の利用者数を加えるとしている。

基準値である平成27年度が1日あたり966人であったのに対し、平成30年度は1,191人となり、目標達成に向けて順調に増加している。今後、県・市連携文化施設が開館するまでは、対象施設の減少により、指標の値が一時的に減少となるが、施設整備が順調に進んでいることから、目標達成は可能であると考えている。

次に、中心市街地における人口の社会増加数についてであるが、目標値は計画期間中の5力年で、中心市街地における人口の社会増加数の累計が240人に達すると設定している。

資料にある最新値マイナス15人の内訳は、平成29年度がプラス4人、30年度がマイナス19人となっている。秋田市に限らず、全国的に人口の減少が続いており、中心市街地においてもその流れにより人口の社会増減がマイナスとなってしまった。

しかし、基本計画に掲載されているCCRC事業や駅東口の学生マンションの建設が順調に進んでおり、これら施設が完成し、入居が始まれば、目標達成は可能であると見込んでいる。

次に、商業集積促進関連制度利用件数についてであるが、創業・起業などのための支援制度の利用件数を計画期間中の5カ年の累計で評価しようとするものである。

ここで対象としている制度のうち、空き店舗を利用した新規出店等に対する支援策である「中心市街地商業集積促進補助制度」については、中心市街地活性化基本計画の認定に合わせて制度を拡充し、より使いやすい制度となったことから、当初の想定を大きく上回って利用件数が伸びており、すでに目標値を超える結果となっている。

最後に、市民活動等施設利用件数についてであるが、にぎわい交流館やアルヴェなどの貸し会議室等の利用件数となる。

利用件数は対前年比で減少となったが、基準値を上回る結果となっている。市民活動等の場として利用されている中心市街地内の施設は、稼働率が極めて高い状態を維持しており、市民の需要を満たす新たな施設整備が期待されているところである。

目標値設定の内訳には、今後整備される予定の（仮称）秋田市文化創造交流館の利用件数も含まれており、施設整備を確実に進めるとともに、各種支援策等を実施していくことで目標達成は可能であると考えている。

4頁、3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由であるが、昨年度実施したフォローアップでは、計画初年度ということもあり、各種事業が順調に進められていることから、すべての目標指標に対し、目標達成可能と見込んでいた。しかし、今回のフォローアップにおいては、歩行者自転車通行量の目標達成の見通しを①から③に変更している。

これについては、昨年12月の協議会で説明したとおり、県・市連携文化施設の開館時期が令和3年度後半であることから、例年7月に実施している通行量調査において、事業効果の測定が間に合わないため、新たに7事業を追加し、目標の達成に向けて最大限努力していくとしたことから、予定どおりではないとして③と評価を変更したものである。

5頁から16頁までは、4. 目標指標ごとのフォローアップ結果として、調査結果の推移、目標達成に寄与する主要事業の進捗状況、事業効果、目標達成の見通しおよび今後の対策などを具体的に記載している部分となるが、ここでの説明は割愛させていただく。

今後のスケジュールについては、本日いただく意見を報告書に記載し、内閣府に対しフォローアップ報告書案を提出する。その後、内閣府にて報告書の内容確認を行い、必要に応じて修正等を行うことになる。

その後、内閣府で全国のフォローアップ報告書を取りまとめ、例年であれば6月末になるが、内閣府が指示する日付でこの報告書を公表する予定となっている。

続いて、事務局より下記のとおり追加報告があった。

秋田市より令和元年5月22日付けで、平成30年度における中心市街地活性化に向けた取組等に対する意見聴取について依頼を受け、回答期限は6月7日（金）までとなっている。資料に基づき意見文書を読み上げ、原案どおり承認された。

【報 告】

(1)-①秋田市中通 CCRC 拠点整備事業の進捗について

株北都銀行地域サポート部赤坂地方創生副部長が下記のとおり報告した。

本体工事を昨年9月13日に着工し、現在の進捗状況は、5月末時点で15%となっている。予定どおりの進捗状況である。

販売活動については、お手元に配布したパンフレットを作成するとともに、4月16日（火）より秋田オーパ内にモデルルームを設け、既に購入意思を示されている方を対象に、完全予約制の内覧会を実施したところである。まだ販売開始となっていないが、分譲マンション60戸のうち、約40戸の予約をいただいている状況である。

価格は非公開であるが、価格帯は、1LDKの2千万円代から最上階の4LDKが7千万円代となっている。

予約の年齢層については、60歳以上が全体の69%を占めている。予想に反し、比較的若い世代の方々からもお問い合わせをいただいている。立地による利便性に着目いただいているのではないかと考えている。

1階から4階までのテナント部分が埋まっておらず、2020年11月オープンに向け、引き続き交渉を進めていく。

地域交流スペースについては、選定したコーディネーター役を中心に秋田市中通地区まちづくり協議会において協議を進めている。今後も進捗状況を随時報告させていただく。

(1)-②ノーザンステーションゲート秋田の動向について

東日本旅客鉄道(株)秋田支社田口地域活性化室長が下記のとおり報告した。

5月23日に、JR秋田ゲートアリーナおよび学生マンション・合宿施設の正式名称が決定した旨のプレスリリースを行っている。JR秋田ゲートアリーナは、「秋田ノーザンゲートスクエア」、学生マンションは「ディークレスト秋田駅前」、合宿施設は「秋田ノーザンゲートトレーニングキャンプ」となった。

様々な事業が秋田駅前において展開され、再開発が進んでいると認識している。JRとしても引き続き皆様と連携・協力しながら事業を進めていきたいと考えている。

(2)-①情報発信事業の進捗および(2)-②アートなまち歩きの発行について

事務局より、情報発信事業については、研究会構成団体が実施する各種事業を周知するためのPR用パンフレットスタンドを「ぼぼろ〜ど」と「にぎわい交流館AU」に6月中に設置し、7月より運用が開始できる見込みである旨を説明するとともに、アートなまち歩きVol.18を4月30日に発行したことを報告した。

【その他】

(1) 県市連携文化施設および旧県立美術館の進捗について

秋田市企画財政部齋藤副理事兼企画調整課長が下記のとおり報告した。

中心市街地活性化基本計画の重点プロジェクトに位置付けられている県市連携文化施設および旧県立美術館の利活用について途中経過を報告させていただく。

はじめに、縣市連携文化施設についてであるが、5月の県議会・市議会において、本体工事の契約案件について議決をいただいている。県議会が5月14日、市議会は県と一本化した工事施工協定として5月22日に議決いただき、5月23日に本体工事の本契約を締結している。その他の設備関係については、5月27日に本契約を締結した。予定通り、7月より着工し、令和3年度中の開設を目指していく。

次に、旧県立美術館についてであるが、(仮称)秋田市文化創造交流館として市で活用する方針を示し、本年4月1日に県より土地と建物の無償譲与を受けたところである。

今後は、6月市議会に改修工事、電気設備改修、機械設備改修の工事契約案件を上程する予定である。議決いただければ7月より着工し、来年度秋の開館を目指していくこととなる。

(2) 東北経済産業局からの施策紹介について

東北経済産業局商業・流通サービス産業課 松田主任が資料に基づき国の施策を紹介した。

【出された意見・質問】

特になし

閉 会